

横田英史の 書籍紹介コーナー



ザ・ワン・デバイス ～iPhoneという奇跡の“生態系”はいかに誕生したか～

ブライアン・マーチャント、倉田幸信・訳
ダイヤモンド社 2,200円(税込)

ちょっと風変わりなiPhone開発物語。ジョブズの気分が左右され、意外にも行き当たりばつりだった開発プロセスを明らかにする。ハードとソフトの開発過程だけではなく、Liイオン電池の原料の採掘現場、中国深センのフォックスコンの工場やiPhoneの部品のブラックマーケットに潜入したりと、多角的な取材を敢行している。

好奇心旺盛な雑誌記者らしい視点は悪くない。本書のカバー範囲は広く、ARMチップ、マルチタッチのユーザインタフェース、タッチスクリーン、ゴリラガラス、カメラの手ぶれ補正、センサー類(加速度、近接、磁気、GPS)について、それぞれ1章を割く。手ぶれ補正技術の開発者として日本人が登場する。凄いのはフォックスコンの工場に潜入したレポートだ。セキュリティが厳重な工場に潜り込んだ経緯や想像を絶する内部の実態を明らかにする。

イノベーションは、万能ではない

西村吉雄
日経BP 2,750円(税込)

イノベーションは経済的な発展に必ずしもつながらないことをデータと歴史的事実を踏まえつつ明らかにし、「イノベーション万能論」に警鐘を鳴らす。ICT

の領域でイノベーションは起こっているのに、経済成長につながっていない。「何故か」について検証する。バックデータを駆使する手法は、安定感と説得力をもたらしている。

筆者は「イノベーションとは何か」から説き起こし、研究→開発→生産→販売→市場と連鎖するリニアモデルの限界、中央研究所の終焉、企業家/シリコンバレーの台頭などを切り口に、成長を生み出すものは何かについて論じる。

第3部「ICTイノベーションズ」で取り上げるのは半導体と電気通信。前者ではマイクロプロセッサ、後者ではインターネットをイノベーションの事例として紹介する。筆者が得意とする半導体の章は読み応えがある。

AI時代の労働の哲学

稲葉振一郎
講談社 1,760円(税込)

「AIの発展が社会に、とりわけ労働に及ぼすインパクトについて考える際に、我々はどのような知的道具立てを既に持っているのかを点検」した書。筆者はAIのインパクトを、「資本主義経済のもとで機械化によって仕事が奪われるインパクト」についてのカール・マルクスなどの議論と対比しながら筆を進める。資本主義とは何かにまで言及しており興味深い。

「AIの労働に対するインパクトは、資本主義のもとでの技術革新(機械化)や組織変革と変わらない」「AIがもたらす

本質的な新しい問題はない」「AIが我々の社会の構造を根本的に変えるとは思えない」というのが筆者の結論である。ただし、AIが自律的な判断・行動能力を備え、道具から離れ「人」と「モノ」との中間にある存在になり始めたら、従来の伝統的な道徳や法の枠組みを揺るがす可能性があるとする。

マーケティングのSONY ～市場を創り出すDNA～

立石泰則
岩波書店 2,640円(税込)

ソニーの強さを営業やマーケティングの視点から描いたノンフィクション。ソニーの取材を30年近く続けているノンフィクション作家による丹念な取材がベースになっており、読み応え十分だ。

筆者の問題意識は、なぜ日本の家電産業が欧州と同じ衰退の道を選んだのかという点にある。本書は、その過程を描き、衰退の理由を解明するライフワークの第1弾と位置づける。経営の判断が現場にどのような影響を与え、現場がどう対応したかをソニーを題材に検証しており興味深い。

筆者は黎明期から、ソニー神話が生まれた時期、ソニーショックの迷走期、もがきながら再浮上中の現在まで、マーケティングの変遷を追っている。ソニーの創業者の一人である盛田昭夫に始まる「市場を作り出すDNA」をうまく描き出しているのは流石である。盛田が語った「マーケティングはエデュケーションである」は卓見だ。

横田 英史 (yokota@et-lab.biz)

1956年大阪生まれ。1980年京都大学工学部電気工学科卒。1982年京都大学工学研究科修了。川崎重工業技術開発本部でのエンジニア経験を経て、1986年日経マクロウヒル(現日経BP社)に入社。日経エレクトロニクス記者、同副編集長、BizIT(現xTECH)編集長を経て、2001年11月日経コンピュータ編集長に就任。2003年3月発行人を兼務。2004年11月、日経バイト発行人兼編集長。その後、日経BP社執行役員を経て、2013年1月、日経BPコンサルティング取締役、2016年日経BPソリューションズ代表取締役就任。2018年3月退任。2018年4月から日経BP社に戻り、日経BP総合研究所 グリーンテックラボ 首席研究員、2018年10月退社。2018年11月ETラボ代表、2019年6月当協会理事、現在に至る。

記者時代の専門分野は、コンピュータ・アーキテクチャ、コンピュータ・ハードウェア、OS、ハードディスク装置、組込み制御、知的財産権、環境問題など。

*本書評の内容は横田個人の意見であり、所属する団体の見解とは関係がありません。

